

8-4-9 砂防・急傾斜専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 砂防・急傾斜専門委員会開催

専門委員会開催回数：10回

4月から翌年1月まで月1回のペースで専門委員会を開催し、技術委員会の報告・連絡、本年度検討項目の審議等を行った。

(2) 活動の目的

近年、気候変動に伴う集中豪雨の増加や地震の頻発等により、土石流・がけ崩れ・地すべり等の土砂災害が全国的に多発し、特に、4月の熊本地震や8月末の岩手県の豪雨災害など、甚大な災害を引き起こされている。また、深層崩壊、大規模土砂災害等が従来よりも高い頻度で発生するようになってきている。平成28年は1492件（土石流等399件、地すべり53件、がけ崩れ1040件 平成28年12月31日現在）の土砂災害が発生し、死者18名と土砂災害が多い年となった。

当専門委員会では、砂防技術の向上を図る観点から、頻発する土砂災害に対する取り組みや砂防業務の課題等を整理検討し、それらに基づき委員会活動を実施した。

(3) 平成28年度の活動

- ① 当専門委員会の活動状況パンフレット（平成27年版）を作成した（A3版表裏1枚）。現地見学会、砂防講習会等で会員に配布し、当専門委員会の活動の周知を図った。
- ② 国土交通省砂防部保全課、砂防計画課幹部との意見交換会を10月13日に実施した。砂防関係業務の現状と課題について意見交換し、4項目の要望等お願い事項を提出した。
- ③ 第11回砂防現地見学会は、中国地方整備局太田川河川事務所管内で9月16日に開催した（30社69名参加）。場所は平成26年8月豪雨により大規模な土石流被害を被った広島県広島市安佐南区を中心に復旧対策工事の状況等を見学、確認した。
- ④ 平成27年度業務に関するエラー事例等の収

集・分析資料を作成し、取りまとめを行った。品質セミナー（全国9支部）へ講師を派遣し、説明を実施した。

- ⑤ 第7回砂防講習会を11月24日に開催した（56社、111名参加）。講師は、国土交通省砂防部西山幸治砂防部長（これからの砂防行政について）、（一社）全国治水砂防協会 大久保駿副会長（砂防会館の歴史から見る砂防今昔物語）、国土交通省砂防部長井義樹砂防施設評価分析官（砂防関係施設の長寿命化対策の取り組みについて）、東京農工大学大学院石川芳治教授（熊本地震による土砂災害の現状について）の4名にお願いした。終了後、講師の方々を交えて参加者等と意見交換会を実施した。
- ⑥ 砂防業務改善について、国土交通省技術調査課からの課題・要望への対応（共通仕様書、積算基準の見直し調査等）、砂防関係コンサルタント懇話会との意見交換会実施（1回）、砂防堰堤に関する補強・改築設計基準の統一方針（案）や研修資料の作成を行った。

2. 次年度の活動について

平成29年度は、前年度に実施した継続事項を中心に取り組むこととする。

- ① 第12回砂防現地見学会を実施する。
- ② 品質セミナーにおいて、エラー事例の収集・分析、講師派遣を行う。
- ③ 第8回砂防講習会を開催する。
- ④ 国土交通省砂防部との意見交換会を開催する。
- ⑤ 平成28年度版活動パンフレットを作成する。
- ⑥ 砂防業務改善において、鋼製構造物設計事例集の作成、補修・改築設計基準を含めた砂防設備維持管理の手引き作成の補足、研修資料作成、砂防関係コンサルタント懇話会との意見交換会、若手技術者育成のための砂防若手技術者との交流会等を実施する。

（砂防・急傾斜専門委員会委員長 坂口哲夫）